

善導の思想的立場

中 岡 隆 善

宗祖法然が強調したのは、云うまでもなく選択本願念仏であつた。この選択本願念仏は、即ち善導の説いた口称々名の一行に帰せらるゝ。しかしながら、善導の念仏觀と法然のそれとは本質的には勿論同一であるが、法然が独自の立場から「念仏には助をさゝぬなり」と述べているところに善導の主張を更に展開した宗教的卓見が窺はれるのである。インドからシナへそしてシナから日本へとうけつがれた浄土教は、法然によつて初めて日本的に展開されたのである。特に法然が選択集の中に於て「偏依善導一師」と述べていることは、彼の宗教的立場を明確に示していると言へるであらう。望西傳了慈が和語釋錄に集載した「なげき」經藏に入り、かなしみく聖教にむかひて、てづからみづからひらきてみしに、善導和尚の觀念の疏にいはく一心専念弥陀名号々々は生死解脱を求める法然をして、罪業深重の尺丈救済の大信法となつた。かゝる法然に与えた弥陀如来の大慈は本願の名号として、偏に善導の指南によられたものである。そしていわゆる「一心専念弥陀名号」乃至「順彼仏願故」という善導の言葉は、かゝる思想的立場を具体的に、しかも根本的に示しているといえるであらう。

ところで、善導は、どうしてわかれわかれの救済を弥陀如来の本願に求めたのであらうか、どう

善導の思想的立場（中四）

して如來の本願念仏を究極的な救済力として見出したのであらうか、またどうして弥陀本願の名号を称念念仏そのものとして規定したのであらうか。このような見地から、善導の思想的立場を明らかにすると共に、特に機根即ち「人間の形而上学的に本質的なもの」を末法意識の自覚によつて明示した善導のいわゆる本願の念仏を根底的に究明しようとするのが二、三の目的である。

末法思想については、仏典に五濁到來や、正法滅尽の言葉をもつて示されてゐるが、教法の變遷につれて、それが、具体的に正像末の思想として現われ、さらに三時思想として明確に組織されたのは六朝末期においてであつた。末法時の到來を最も早く実感したのは北齊の慧思（A.D. 515→549）であつた。という見解は従来、學者の定説となつてゐたが、これに対して近年、否定的な結論を下す二三の學者もいる。即ちその否定的見解は、末法思想のうらづけともいえる立書類文偽撰という問題に基づくものである。これはさらに検討を要する問題であつて、即座に結論することはできないが、しかしそれは兎に角として、華北の太行山脈を堺として東部においてほ信行（A.D. 540→590）が、西部においてほ道綽（A.D. 562→645）が、末法時を意識して、それそれの立場から大いに人間性に基づいた宗教を宣布した。即ち、かれらは共に時機相應の宗教、即ち仏教をその時代観に基づいて説いたのである。

年代順に述べるのが適切であるが、二、三では便宜上先づ道綽から述べることにする。道綽の自著、『安樂集』巻上へ淨全一六七四には次のように述べられてゐる。

「今時衆生即當仏去世世第四五百年正覺微悔過懺悔、稱念名号時若著一念稱阿彌陀仏即能除却八十億劫生死之罪」

また同へ津全一・六九三ノ上ノには

「末法時中億億衆生起行修造未有一人得者今末法現是五濁惡世唯有淨土一門通路也」
又云

前者の引用において、道禪は、大集經月藏分の中に説かれてゐる五箇五箇年の時代觀を記載して三時の説を立てて、さらに後者の引用において、か小は聖道門的立場を否定して、淨土門的立場をことさらに強調してゐる。要するにここにおいて、か小は末法意識を自覺することにして、弥陀如來の大悲を仰がんとしてゐるのである、このことは特に注意すべきことからである。それはこ小から述べようとする善導の思想的立場の基をなすからである。

さて、善導は、道禪の確立した末法思想を受けついただけでも、さらに「觀無量壽經」を再記載することによつて、か小如來の立場から人間性を追求したのである、ことばを換えていへば、これは觀無量壽經に説かれてあるところの眞の意味を把握して、罪惡生死の阿丈といえども、ゆゑに弥陀の本願力によつて救われるという道を明示したのである。こ小がいわゆる「阿入救土論」の契機をなすものである。

善導は、自善可觀經疏において、か小の思想的立場を明確に次のように述べてゐる。即ち、
「今達狀如仙末法之遺跡弥陀本誓願極樂之要門」へ津全一・一ノ上、玄義分ノ

こ小をさらに具體的に、

「自身是罪惡生死阿丈處劫已末常流轉無有出離之緣、乃至、彼阿弥陀仙四十八願攝受衆生無難無盛榮被願力足得往生」へ津全二・五六ノ上、散善義ノ

このように、善導は、末法時において衆生が救われる唯一の道は、阿弥陀仙の本願を信ずる善導の思想的立場（中阿）

ほかにはない、と力説したのである。がここに、かれの人間の罪業に対する深き反省によつて、機教相應の教法が、仏願の念仏のうちに現出されたのである。即ち、かれの宗教的立場として、信機信法が確信されたのである。それゆゑに、阿彌陀仏の本願の念仏に深く皈依したところに、善導の宗教的至情が窺われ、またかれの宗教的自覚が認められる。

仏典の中に、單に仏教の魂末願として、五濁惡世、罪業深重（の機）、或は經道滅盡などという言葉をもつて示されてゐる末法思想は、もやみに宿命觀をいだかせるものではなく、それほむしろ歡喜の念仏へと躍進せしめるものであつた。即ち、善導が「南無至心稱念れ西方阿彌陀仏、萬年三寶海、此經住百年四時同一念、皆當得往生、寶光諸衆生、往生安樂國」へ淨全四・三六二ノ下往生礼讃と述べてゐるやうに、單なる尸史觀にもとづいて從來、大多數の仏教徒たちが、いたいてゐた末法思想を、かれは根本的に否定することによつて、機教相應の念仏を本願口鉢の念仏として確信的に説いたのである。

次に同じく末法觀にもとづいて三階教を確立した信行は、かれ独自の立場から淨土教を批判した。即ち、或見俱被轉倒の機が弥陀一仏に帰して餘仏を無極するのと云うのは、法を轉り仏を轉ることであつて、從つて、かれらは淨土に往生することができないののみならず、阿鼻地獄を免れることもできない。またかれは、或後の百年は即ち末法以前のことであつて、如三の五百年以後は難定を修することができないから、觀無量壽に説かれてゐる十六觀念仏三昧を修することは不可能であると論斷して、力をつくして淨土教を批難してゐる。と二方で三階教が對根起行を標榜し、如一二階の別法をまつたく宛して如三階の善法を立ててゐるのは、あたかも淨土教における密立説と訓を一にしている趣きがある。また一方、三階教は一切三聖に皈依し

一切行による普救善行の宗教を強調している点で、彌陀の教説いた淨土教は彌陀一仏に絶対的に歸依し、専修專念の念仏往生を主張した点で一神教的であるが、このように両者は相異っているように思われるのであるけれども、いづれもこの末法時の現實に於いて、もつとも適応した、しかも実践しやすい教法に普遍的な価値を追求したことは、疑いできないことである。これらは、とりもなほさず末法思想に対する見解の相異に起因するものと云われねばならない。

ところで、治導はか所の末法觀にもとづいて、「末法時にあける衆生は、たゞ阿彌陀仏の本願念仏によつてのみ救われる」と主張したのであるが、いったいどうして、これがこの觀念にたつたのであろうか、それは、これが道綽の中心的教説を授けついで、新らしい見地から阿彌陀無量壽經の「をみなおした」ところに、末法思想に対するか所の立場が見出されるのである。即ち淨影寺慈遠や天台智顗などは、觀無量壽經に説かれているイタイケ（章提希）夫人を大ボサツ（菩薩）とみなしているが、これに反して善導は、イタイケ夫人は聖の人ではなく、まづたゞ凡夫の性をもつ人であるとして、そこに人間性にもとづいた聖凡生死の人間觀をうちたてたのである。これは、いわゆる「衆の衆倍」としてあらわされた。

このような立場から、善導は、凡夫性をもつ人間をそのまま彌陀の報土に往生せしめるといふ点を力説した。即ち、善導がその經典の中から把握せられた核心は、まさしく凡入報土の仏意であつた。

二に、善導の思想的立場を最も端的に理解するためには、阿彌陀經の中に説かれてゐる如來の本願に対するか所の解釋を引用することが適切である。即ち、

善導の思想的立場（中阿）

「一願言若我得仏十方衆生林我名号彌生我國下至十億若不生者不取正覺」へ淨金二・一〇、下
觀經疏・玄義分、

「若我成仏十方衆生彌生我國林我名字下至十声衆我願力若不生者不取正覺」へ淨金四・二三、
上、觀念法門、

「若我成仏十方衆生林我名号下至十声若不生者不取正覺被仏今現在世成仏者知本誓重願不虛
衆生林愈必得往生」へ淨金四・三七、上、往生礼讃後序、

このように、善導は、阿彌陀仏の本願力によつて念仏往生でさる、という確信をもつたので
ある。しかしながら、このような思想はすでに曇鸞によつて確立されたものであつた。かれは
多分に竜樹の思想に影響されて、五念門を明確に組織し、そして阿彌陀仏の本願力に就るから
そこに必然的に浄土往生の可能性がある。と説いた。しかも、かれの浄土往生に対する見解
は、必ずず菩提心を起さねばならないとするのである。一方、善導は、かれもまた菩提心の必
要性を認めてゐるけれども、觀經疏上へ散善義、の中に示されてゐる付屬の文を解釈してい
ることから判断するかぎり、殊名念仏そのものをまつた往生の生因とみなしてゐた、といえ
るであらう。

要するに、浄土往生の思想は、インドの竜樹・世親からシナの曇鸞・道綽をへて、善導に受
けつがれたのであるが、その思想はさらに道綽・善導の末法意識の自覚によつて展開せられたの
である。このような歴史的過程のうちにあつて、善導は道綽よりも一步進んで、かれの思想的
立場をより実践的に明示したのである。